

学校だより



# 平沼

横浜市立平沼小学校

平成 30 年 9 月 28 日

Mail ; y3hiranu@edu.city.yokohama.jp

URL ; <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hiranuma/>

## 憧 れ

校 長 長谷川 絹子

1年の学習の折り返しの時期となりました。読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋…と言われますが、子どもたちがいろいろなことに意欲をもち、実りの秋となってくれることを願っています。

さて、私が4月に平沼小に着任したときからずっと楽しみにしていたことの 하나가「平沼水天宮例大祭」です。本校にとって絶対に外せない大きな地域行事ということで、私のスケジュール帳に赤字で大きく記入してあり、その祭りにいよいよ参加することができました。

あいにく今年は台風通過により、神楽殿での出演や屋台などは縮小化してしまい、今までを知っている方にとっては物足りないものだったかもしれません。しかし、荘厳な水天宮の設えや温かみのある各神酒所、まちに溢れる地域の方々の緊張感や期待感などが伝わってきて、私にとっては心躍る想像以上の祭りの経験となりました。大都会横浜の中心に、ずっと受け継がれてきた伝統のあるこんな素晴らしい祭りがあったのですね。

この紙面では伝えきれないほどの感動がある中、「憧れの存在」が心に残りました。この祭りには多くの4、5、6年生が神楽殿でエイサーやソーランの踊りで、また、5、6年生は神輿担ぎで参加させていただきました。特に、はっぴと豆絞りを身にまとい、大きな声で参道を担ぎ歩く姿は圧巻で、見守る下学年生にもその迫力やかっこよさは伝わり、「自分も高学年になったら、あのはっぴを着て神輿を担ぎたい!」と、「憧れの高学年」になりました。また、各町内会の神輿を担ぐ大人たちの姿は、さらに気迫と心意気に満ちた憧れの存在として多くの子どもたちの目に映ったのではないのでしょうか。

「憧れ」をもつことはとても価値のあることです。すてきだと心を動かされ、目標が設定され、そうなりたいと前向きに努力することができます。偉人やスポーツ選手など遠い人ではなく、身近なかかわりの中での憧れは現実的なイメージとなり、手の届く目標となります。憧れの存在となった5、6年生も自尊心をもつとともに、ふさわしい存在でありたいとさらに自分を高めていくのではないかと、その憧れによって地域の伝統が引き継がれていくのではないかと考えています。そして、子どもたちの貴重な活躍を支えてくださいましたPTA、共育ネットワーク、地域の皆様に深く感謝いたします。

### 今どき6年生の短歌

たのしみは朝おきいでて昨日まで

無かりし花の咲ける見る時

橘 曙寛

国語の学習から「たのしみは」で始まり、「時」で結ぶ短歌を作りました

たのしみは

顔文字系のストラップ

見つけて買う時すべつける時

ふとんに入りゴロゴロと

悩みも忘れて無になれる時

おじいちゃんに会いに行き

映画を一つ二人で見る時

家に帰ってマイネコと

イチヤイチャケンカする時

週二回のタグラグビー

助け合いながら試合する時

年一度のおまつりで

みんなでわいわいさわいでいた時